

## ★ 地方創生事業の優等生！選ばれる街づくりとは？

突然ですが、1月10日は何の日かご存知でしょうか？

既に複数の記念日が日本記念日協会によって認定登録されていますが、今回の答えは、大分県の北東、国東半島の付け根に位置する豊後高田市が2015年に申請して認定された「移住の日」です。もちろん語呂合わせですが、豊後高田市は、総務省が開設しているウェブサイト「全国移住ナビ」に登録している自治体（全国1,638市区町村）のローカルホームページとプロモーション動画のコンテストで、全国第1位を意味する総務大臣賞を受賞するなど、市を挙げて様々な住みやすい街づくり施策を展開しています。移住の体験談など移住者が欲しい情報が分かりやすく配置されており、市の移住支援サイトへの誘導がしっかりしている点が評価されての受賞ですが、多種多様な取組みがある中で、主だったものを以下に紹介します。

### 【住宅支援】

- ・ハッピーマイホーム新築応援奨励金  
市内に住宅を新築又は購入した方全員に、最大50万円を交付
- ・お帰りのさい住宅改修補助金  
進学や就職などのために市外に居住していた人が、再び転入（Uターン）し、以前居住していた建物の増改築等を行った場合に、改修費用の1/2（上限40万円）を補助
- ・空き家バンク  
市内の空き家物件情報を提供、空き家物件提供者には奨励金を交付

### 【子育て・教育支援】

- ・キラキラっ子出産祝い金の支給（第1子5万円、第2子5万円、第3子10万円）
- ・ママ家事サポート事業、一時保育事業、一時預かり事業、病児保育事業、病後児保育事業、ファミリー・サポート事業など、育児の様々なシーンに合わせたサポート体制を、保育園や病院、NPO法人アンジュ・ママン（フランス語で「天使のお母さん」の意）等が中心となって実施

### 【就労支援】

- ・新規就農支援事業  
市が認定した先進農家のもとで、体験研修、見極め研修、本格的な研修と段階を踏んで受講することが可能
- ・豊後高田市就職応援企業（108社）を組織し、移住希望者等に情報を提供

その効果があっただけでなく、「田舎暮らしの本」を発行する柗宝島社が2013年版から実施している「住みたい田舎ベストランキング」において、5年連続ベスト3にランクインし、2017年度版でも「総合」第2位（ちなみに第1位は鳥取市）と、「住みたい田舎」というカテゴリーでは先進都市としての地位を不動のものにしています。人口が昨年の12月末現在で約2万3千人と小さな都市ではありますが、平成22年度にわずか6人だった移住者が、翌年度以降51人、154人、237人、247人、平成27年度は280人と着実に増えています。

2014年5月に、元総務大臣の増田寛也氏を座長とする「日本創生会議」の人口減少問題検討分科会が発表した「2040年までに消滅する恐れがある896市町村」という報告（通称「増田レポート」）は、日本中に衝撃を与えました。地方自治の専門家の中には、人口だけ増加すればすべてがハッピーという問題ではなく、財政の健全化の方がもっと重要だと主張する方もいますが、やはり人が集まることですべてがスタートするのではないかと感じます。人（特に子育て世代）が集まることでそこにエネルギーが溜まって活性化します。企業もその良質な労働力を確保しようと集まる。雇用の場が増えれば購買力が向上して消費が増え、経済が活性化します。そんなに単純な問題ではないという声が遠くから聞こえてきますが、少なくとも都会での生活と比べると精神的に安定したほっこりとした人間らしい生活が営めるのではないかと思います。

平塚市も2016年の夏から、市のイメージ向上や定住促進を目指して、「手をつなぎたくなる街 湘南ひらつか」というスローガンのもとでプロモーション活動を展開しています。仕事、生活、観光、様々な係わり方がありますが、「この街が好き」と思ってもらえるような街になれることを願っています。（工藤克己）